

科目名 Course Name	情報職業論 Theory of Information Technology jobs						
年次	2年	期別	後期	単位数	2単位	授業形態	講義
担当者氏名	長江 庸泰						
連絡先(質問等)	メールにて対応、オフィスアワー:本館2F(研究室 1)月～木曜 9:00～16:00(授業・会議時間を除く)						
必修/選択	選択						
関連 DP	DP2,DP3,DP5						
授業の概要と到達目標	<p>情報と職業の関わりや、情報に関する職業人としての在り方など、情報化社会に至る歴史を展望し、情報社会・情報産業の実態について学び、次に、企業・組織における情報の取り扱いについて、企業組織、人事・教育、知的財産といった視点から概観し、さらに社会人として知っておきたい情報・データの基本的な取扱方法やプレゼンテーションの方法について学習する。</p> <p>①情報技術と職業の関わりや、情報技術に関する職業人としての在り方と諸活動を認識し、説明できるようにする。</p> <p>②企業・組織における情報の取り扱いについて、企業組織、人事・教育、知的財産といった視点から概観・体得できるようにする。</p> <p>③卒業後、実際のビジネス・シーンで役立つように、その理論を十分に理解して、基礎知力および応用力を体得できるようにする。</p>						
授業の方法	本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、情報職業に精通した人材育成を目指すものである。						
学習成果	L01						
	L02						
	L03	<p>①情報技術と職業の関わりや、情報技術に関する職業人としての在り方と諸活動を認識し、説明できる。</p> <p>②企業・組織における情報の取り扱いについて、企業組織、人事・教育、知的財産といった視点から概観・体得できる。</p> <p>③卒業後、実際のビジネス・シーンで役立つように、その理論を十分に理解して、基礎知力および応用力を体得できる。</p>					
	L04						
課題に対するフィードバック	小テスト・期末試験等の解答を示し、結果は、メール等で個別にフィードバックする。						
教科書/参考図書	長江庸泰作成の“デジタルテキスト[情報職業論 2020 年度版]”を活用する。						
履修上の留意点やルール等	事前・事後学習各回 180 分、本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する自主創造の教えを基に、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けること。						
担当教員の実務経験	●実務経験(職種:会社役員 職歴:40 年)、実務経験を情報に関する職業人の実践面と学習・説明等で活用する。						

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	以下の 3 点から評価する:①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S 評価の基準:上記参加態度を全て満たすもの。			10	
レポート/作品	S のレポートの評価:①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月 1 回計 3 回提出予定(締切は毎月			30	

佐野日本大学短期大学 2020 年度シラバス

	末)。				
発表	Sのレポート発表評価:①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。			20	
小テスト	成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59			20	
試験	成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59			20	
その他	上記評価基準に基づき成績評価:S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59				
合 計				100	

回数		授業計画
1	授業内容	授業ガイダンス:本授業の進め方と学び方/レポート課題説明と出題の解説、シラバスを読んでおき、各授業に関する質問事項等を考えておくこと。
	事前・事後学習	事前学習(上記質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを整理しながら、自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)。
2	授業内容	情報化社会の進展:情報化社会に至る歴史的展望<情報化にともなうビジネス環境の変化、情報化社会の課題。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
3	授業内容	日本経済の変遷と現状:我が国の経済状況の変遷、産業構造の変容・実態・現状。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
4	授業内容	情報に係わりの強い産業、職業:情報通信産業の現状、情報通信産業の人材の動向/(グループワークによるプレゼンとディスカッション①)。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
5	授業内容	情報を活用している産業、職業:小売業、流通業、製造業などの身近な職業において、どのように情報を活用しているか考える。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
6	授業内容	企業の仕組みと情報活用(1):企業活動の仕組みについて学ぶ。情報化にともなって組織がどのように変容するかについて考える。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
7	授業内容	企業の仕組みと情報活用(2):企業における人事考課、業績評価、企業内教育、資格等について学ぶ。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
8	授業内容	社会が求める人材:若年層の就業状況、企業・組織が求める人材像を概観する、キャリア教育の必要性について学ぶ/(グループワークによるプレゼンとディスカッション②)。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
9	授業内容	社会・企業活動における情報の取り扱い方法(1):ビジネスや学校において情報を伝え、理解させる方法論を学ぶ。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
10	授業内容	社会・企業活動における情報の取り扱い方法(2-1):ビジネスや学校における測定と評価に関する方法論を学ぶ。そのなかで量的データの取り扱い方法について学ぶ。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
11	授業内容	社会・企業活動における情報の取り扱い方法(2-2):ビジネスや学校における測定と評価に関する方法論を学ぶ。そのなかで質的データの取り扱い方法について学ぶ。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
12	授業内容	社会・企業活動における情報の取り扱い方法(3):ビジネスや学校における情報の構造的な把握法、表現方法について学ぶ。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
13	授業内容	社会・企業活動における情報の取り扱い方法(4):ビジネスや学校におけるデータ・サイエンス①について学ぶ。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
14	授業内容	社会・企業活動における情報の取り扱い方法(5):ビジネスや学校におけるデータ・サイエンス②について学ぶ/(グループワークによるプレゼンとディスカッション③)。
	事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
15	授業内容	社会・企業活動における情報の取り扱い方法(6):ビジネスや学校におけるデータ・サイエンス③について学ぶ。

事前・事後学習	上記の質問事項等の準備とノートの事後整理学習。
----------------	-------------------------

